



Camelia Pictorum / IL GIARDINO DELLE CAMELIEより

花かがみ

HANA-KAGAMI

発行人/小笠原 聖 発行所/名古屋園芸株式会社
〒460-0005 名古屋市中区東横2-18-13 tel. 052-501-8701
http://nagoyaengei.co.jp/

17 12

名古屋園芸

迎春コレクション



パースデーフラワー

～タンザナイト～



BOXアレンジ ¥4,000 +税

紅葉も盛りから徐々に見納めへ。秋の名残とあ
わただしい冬の到来が交差する季節。そんな12月
を象徴する今月のおすすめカラー。寒色（ブル
ー）と暖色（レッド）それぞれの要素を持つパー
プル。それは12月の誕生石、タンザナイトのよう
に…。

タンザナイトとはタンザニアのキリマンジャロ
でしか採取できない稀少な宝石のこと。自然光の
下では透明感に満ちた美しい群青色に。ライトの
もとでは高貴な紫色に輝き、また同時に青と紫を
有したり、紫と赤を有することもある多色性がタ
ンザナイトの特徴です。

実は、まだ歴史は浅く発見されたのはごく最近
のこと。ルビーを探していた鉱物コレクターが偶
然発見したものとされています。正式名称はブル
ーゾイサイト。いち早くその価値を見出したティ
ファニー社の大々的なプロモーションによってタ
ンザナイトという名で世界中に広がることとなり
ました。それはタンザニアの夕暮れの空の色をイ
メージして名づけられたようです。

タンザナイトのような深みのある色は秋から冬
へ移ろうこの時季とよく合います。今月はタンザ
ナイトカラーでコーディネートされた少しシック
なフラワーギフトをご提案。シルバーグリーンと
オーナメントをプラスしたデザインで、クリスマ
スギフトとしてもおすすめです。花かがみを見た
とお申しつけください。今月も誕生石カラーのス
ワロフスキーを添えて、大切な日のプレミアムな
フラワーギフトをお送りいたします。



ブーケ ¥3,500 +税



アレンジ ¥3,500 +税

information

縁起物コレクション、始まります。
万両・千両・百両・十両展
12/9 (土) ~ 2018/1/17 (日)



百両（カラタチバナ）を中心に、
万両（ヤブタチバナ）、千両（ク
ササング）、十両（ヤブコウジ）。
お正月の縁起物として古来より親
しまれてきた植物を展示致します。
斑入りや獅子鬚など、おめでたい
春を迎えてくれそうな珍しい品種
が揃います。即売もしております
ので、気に入った植物はその場で
お求め頂けます。名古屋園芸なら
ではのラインナップにご期待くだ
さい。皆様のお越しをお待ちして
おります。



花の博物館 第263回

奇観四季の友 冬の庭

歌川廣重（初代）画
弘化五年〜嘉永五年
（一八四五〜一八五三）
伊場屋仙三郎版

小笠原左衛門尉亮軒

江戸市中、町屋の中庭冬の情景
を描いたものである。画面右端に
は墨意の中はたぶんとクサであろ
う。右の女性はスイセンの切花を
持つ。中央の小さな彌生様の造り
物は小鳥の餌台、中央の女性は餌
の補給をする、目ざとい雀が左上
に三羽が飛び人の去るのを待つ。
左の女性は手水鉢の水を割る。そ
の右側には五葉形の盆栽、左には
ナンテンの葉がたわに色付く。
広重の観察力の鋭さと、当時の
富裕層の生活をかいま見ることが
できる。

Gardening Gadget Gallery

ルーツポーチ

Root Pouch | Oregon, USA



Seedling Plants Grow in
ROOT POUCH

ちょっと面白い園芸資材をピックアップす
る不定期連載GGG、久しぶりの登場となります。
今回ご紹介するのは、アメリカ オレゴ
ン生まれのポーチ型栽培容器「Root Pouch」
です。このポーチはリサイクルペットボトル
とリサイクル天然素材がミックスされた不織
布を素材に作られており、サスティナブル
（環境に配慮し）持続可能な園芸ツール
として近年注目を浴びています。通気性や排
水性が良いため、商品名にもなっている根
（Root）の張りが高く、植物をじっくりしっか
りと育てるにはうってつけの商品と言えるで
しょう。

また、取っ手付きタイプは壁やフェンス等
に引っ掛けて栽培ができるため、限りあるス
ペースを有効に使うこともできます。最近で
はニューヨークのアパートでルーツポーチを
使った家庭菜園がNew York Times誌に取り上
げられるなど、都市部に暮らす方々にこそ使
っていただきたい省スペース化を実現する裁
培容器でもあります。

プラスチックだと見た目が…、かと言って
陶器だと重くて…、という方に新たな選択肢
として登場したRoot Pouch。鉢ではなく袋で
栽培することが私たちの中で当たり前になっ
た時、次世代に繋がる新しい園芸の形が見え
てくるかもしれません。

